

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第69期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

■当期の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、欧州債務問題による新興国への経済影響等により全般的に厳しい状況が継続しました。政権交代以降もアベノミクス効果として円安、株高等の景気回復への期待感は見られるものの、实体经济への波及は限定的なものに留まり、国内設備投資も低迷が続きしました。

こうした状況下、当社グループにおいても主要市場である半導体・液晶市場の設備投資が依然として停滞するなど厳しい経営環境が継続した結果、受注高は10,455百万円（前年同期比20百万円、0.2%増）、売上高は10,557百万円（前年同期比1,233百万円、10.5%減）となりました。

利益面に関しては、前年同期に対して大幅に減少したものの、

コスト抑制の推進に加えて、外貨建債権の円換算を含めた為替差益62百万円が発生したこともあり、経常利益は242百万円（前年同期比434百万円、64.2%減）を確保することができました。しかしながら、繰延税金資産の回収可能性の見直しを含めた繰延税金資産の取崩額198百万円と持分法適用関連会社クロダニューマティクス株式会社の株式譲渡に伴う投資有価証券売却損149百万円の影響により、当期純損失は180百万円（前年同期は当期純利益292百万円）となりました。財務体質面では、コミットメントラインの活用等により、自己資本比率35.8%、純資産6,780百万円とそれぞれ改善いたしました。

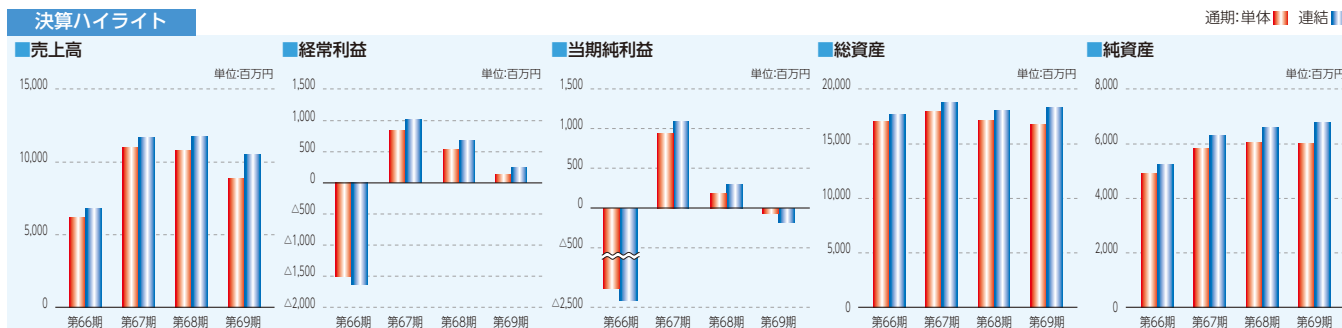
期末配当につきましては、総合的に勘案した結果、1株当たり1円とさせていただきます。株主の皆様には何卒ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、第3四半期連結会計期間に企業買収を行ったKURODA JENA TEC HOLDINGS LTD.の業績は第4四半期連結会計期間から連結損益計算書に取り込まれております。

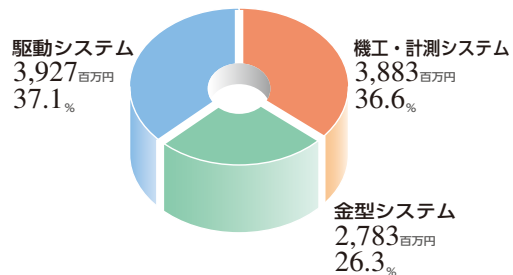
■来期の見通し

当社グループの主要市場である半導体・液晶市場の急激な回復は見込めないものの、アベノミクス効果もあり今後緩やかに景気が回復することが期待されると同時に、買収したKURODA JENA TEC HOLDINGS LTD.が来期からはほぼフルに業績に寄与することから、来期の連結業績は、売上高13,050百万円、営業利益670百万円、経常利益600百万円、当期純利益440百万円を予想しております。

なお、KURODA JENA TEC HOLDINGS LTD.の決算日は現在5月末日となっておりますが、来期より2月末日に変更し連結へ取り込む予定です。このため買収企業の連結損益計算書への影響は11ヶ月分で算定しております。



セグメント別売上構成比



各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて表示しております。

■ 駆動システム

開拓に力を注いでいる海外市場や小型工作機械・医療分析関連からの新規受注が得られたのと同時に、第4四半期後半からは半導体関連のスポット案件の引合いが増加傾向にあるものの、当連結会計年度を通しては、当社グループにとっての主要市場である半導体・液晶関連の設備投資の停滞の影響を受けて受注の低迷が継続し、売上は減少いたしました。

当セグメントの受注高は3,774百万円（前年同期比63百万円、1.6%減）、売上高は3,927百万円（前年同期比680百万円、14.8%減）、営業利益は43百万円（前年同期比354百万円、89.2%減）の結果となりました。

売上高 **3,927** 百万円

■ 業界初の新商品販売開始

スーパーエンブラ樹脂製ナットとステンレス軸を組み合わせたレジソナットボールねじRシリーズは、従来のボールねじに比べ軽量・低価格化を実現しました。ボールねじ特有の位置決め精度・機械効率の良さを損なう事無く、高精度化・モーターの小型化・省エネ化が可能であり、特に今後需要の拡大が期待出来るライフサイエンス全般、分析機、測定機等の用途に最適です。端末アダプタ付ボールねじGK・FKシリーズはアダプタ組み付け済み、端末追加加工不要で当社在庫標準品と同等精度、超短納期を実現いたします。



レジソナットボールねじRシリーズ

■ 金型システム

携帯用振動モーターコアおよび車載用モーターコアの受注・売上は堅調に推移したものの、モーターコア用金型の家電業界低迷、中国市場の減速が重なり、結果としてセグメント全体では受注・売上とも減少いたしました。

当セグメントの受注高は2,807百万円（前年同期比78百万円、2.7%減）、売上高は2,783百万円（前年同期比206百万円、6.9%減）、営業損失は43百万円（前年同期は営業損失73百万円）の結果となりました。

売上高 **2,783** 百万円

■ マレーシア現地法人が史上最高の売上高・営業利益を達成

スマートフォン、携帯電話の振動モーターコアの製造販売を行っているマレーシア現地法人「KURODA PRECISION INDUSTRIES (M) SDN.BHD.」が過去最高の売上高・営業利益を記録しました。

今後は金型のメンテナンスサービスを強化し、ボールねじや工作機械の販売にも取り組んでいく計画です。なお、事業拡大に伴い生産能力の増強を図るため、平成25年8月にプキットラジャ地区への移転を予定しております。



■ 機工・計測システム

半導体・液晶パネル需要の冷え込みにより超精密表面形状測定装置（当社商品名：ナノメトロ）の受注は大幅に減少したものの、ツーリングや工作機械における自動車・電子関連からの引合いは堅調に推移しました。売上に関しては、超精密表面形状測定装置の低迷に加え、前年度末のエンエ革税制の駆け込み需要の反動から工作機械の売上が減少しました。

当セグメントの受注高は3,910百万円（前年同期比106百万円、2.8%増）、売上高は3,883百万円（前年同期比401百万円、9.4%減）、営業利益は69百万円（前年同期比195百万円、73.9%減）の結果となりました。

売上高 **3,883** 百万円

■ 精密平面研削盤GS-PF II シリーズ

発売以来、その精度の高さや操作性の良さから高い評価を頂いている「GS-PF II シリーズ」をモデルチェンジ。上質で清潔感のある外観、人間工学に基づいた操作レイアウト、使いやすいタッチパネル式カラー液晶画面など充実した装備となっております。多様なニーズに対応した豊富なオプションをご用意し、お客様だけの1台にカスタマイズが可能です。



■ 国内唯一のAPIねじゲージメーカー

米国発のシェール革命が天然ガスや原油産出の新たな可能性を創出し、エネルギー資源の世界地図が大きく塗り変わりつつあります。それらの採掘に使用するシームレスパイプは、ねじ部の検査に用いるのがAPI（アメリカ石油協会）ねじゲージです。当社は国内唯一のAPIねじゲージメーカーであり、品質において最高級の評価を受けるとともに、原価管理を徹底し、大幅なコストダウンを実現しました。今後も新たな資源開発に不可欠な製品を供給し続けます。



「KURODA JENATEC」ブランドの制定

平成24年11月、Avingtrans Industrial Products Ltd (現商号：KURODA JENA TEC HOLDINGS LTD.) の株式を100%取得し子会社化いたしました。欧州を中心に精密ボールねじや工作機械スピンドルを製造販売している同社とのシナジー効果を追求すべく、製品補完および販売ネットワークの拡充を図るとともに、駆動システム関連製品より全世界で「KURODA JENATEC」の統一ブランドにて販売活動を行うことを決定いたしました。従来、日本およびアジアが主体であった当社事業のグローバル展開をさらに加速させます。



「バリューチェーンコア企業100社」に選定

株式会社日本政策投資銀行が実施した「バリューチェーンコア企業」に着目した調査において、技術力があり、バリューチェーン上で重要な役割を担う100社に当社が選定されました。今後も行動理念である「CHALLENGE & CREATE」のもと、創業より培ってきた精密技術で産業の高度化に貢献してまいります。

「ミニマルファブ技術研究組合への参加

当社は独立行政法人産業技術総合研究所が提唱した「ミニマルファブ構想」の実現に向けて設立されたミニマルファブ技術研究組合へ参加しております。ミニマルファブとは、ハーフィンチウエーハを製造基板単位とする、幅30cm・高さ140cmの半導体製造装置を開発することで、工場の投資規模を大幅にコンパクト化する半導体製造システムのことを指します。同組合への参加を通じて、超小型ハーフィンチウエーハ用測定装置の研究開発と従来の300mmおよび450mm大口径ウエーハ検査装置の更なる高精度化を並行して進めてまいります。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期		前 期	
	平成25年3月31日現在		平成24年3月31日現在	
資産の部				
流 動 資 産	7,110	8,322		
固 定 資 産	11,273	9,764		
有 形 固 定 資 産	7,857	7,583		
無 形 固 定 資 産	1,450	114		
投 資 そ の 他 の 資 産	1,965	2,065		
資 産 合 計	18,384	18,086		
負債の部				
流 動 負 債	7,008	5,879		
固 定 負 債	4,595	5,584		
負 債 合 計	11,603	11,463		
純資産の部				
株 主 資 本	4,665	4,902		
資 本 金	1,875	1,875		
資 本 剰 余 金	1,451	1,451		
利 益 剰 余 金	1,346	1,583		
自 己 株 式	△7	△7		
その他の包括利益累計額	1,914	1,556		
その他有価証券評価差額金	352	252		
土 地 再 評 価 差 額 金	1,413	1,413		
為 替 換 算 調 整 勘 定	148	△109		
少 数 株 主 持 分	200	164		
純 資 産 合 計	6,780	6,622		
負 債 ・ 純 資 産 合 計	18,384	18,086		

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期		前 期	
	平成24年4月1日～平成25年3月31日		平成23年4月1日～平成24年3月31日	
売 上 高	10,557	11,790		
売 上 原 価	8,090	8,997		
売 上 総 利 益	2,467	2,792		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,413	2,234		
営 業 利 益	53	558		
営 業 外 収 益	422	363		
営 業 外 費 用	233	245		
経 常 利 益	242	676		
特 別 利 益	—	0		
特 別 損 失	151	92		
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	91	584		
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	48	45		
法 人 税 等 調 整 額	198	231		
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益	△156	307		
少 数 株 主 利 益	24	14		
当 期 純 利 益	△180	292		

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期		前 期	
	平成24年4月1日～平成25年3月31日		平成23年4月1日～平成24年3月31日	
営 業 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	1,028	852		
投 資 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△2,030	△298		
財 務 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△293	△614		
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	8	5		
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額	△1,286	△54		
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	3,234	3,289		
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	1,948	3,234		

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	5,249	7,417
固定資産	11,500	9,744
有形固定資産	7,159	7,320
無形固定資産	109	113
投資その他の資産	4,231	2,310
資産合計	16,749	17,162
負債の部		
流動負債	6,383	5,678
固定負債	4,350	5,439
負債合計	10,733	11,117
純資産の部		
株主資本	4,250	4,379
資本金	1,875	1,875
資本剰余金	1,451	1,451
利益剰余金	931	1,060
自己株式	△7	△7
評価・換算差額等	1,765	1,665
その他有価証券評価差額金	352	252
土地再評価差額金	1,413	1,413
純資産合計	6,016	6,044
負債・純資産合計	16,749	17,162

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日～平成25年3月31日	平成23年4月1日～平成24年3月31日
売上高	8,883	10,832
売上原価	7,025	8,376
売上総利益	1,858	2,456
販売費及び一般管理費	1,925	1,995
営業利益	△66	461
営業外収益	402	298
営業外費用	208	227
経常利益	127	531
特別利益	4	0
特別損失	2	92
税引前当期純利益	129	438
法人税、住民税及び事業税	10	16
法人税等調整額	191	236
当期純利益	△72	185

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

会社の概要

(平成25年3月31日現在)

商号	黒田精工株式会社
本店	神奈川県川崎市幸区下平岡239番地
創業	1925年(大正14年)
資本金	18億7500万円
従業員数	422名

連結対象会社の状況 (平成25年3月31日現在)

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダインターナショナル株式会社 クロダプレジジョンインダストリーズ(M) (マレーシア) 平湖黒田精工有限公司 (中国) 永昇電子株式会社 韓国黒田精工株式会社 KURODA JENA TEC HOLDINGS LTD. (英国) Jenaer Gewindetech GmbH (ドイツ) Jena-Tec, Inc (米国) Jena Rotary Technology Ltd (英国)	株式会社ゲーシング 日本金型産業株式会社 株式会社TKG
当社グループの主要な事業 (平成25年3月31日現在)	
セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ、ガイド、ギア
金型システム	積層精密プレス型、モータコア型、精密金属プレス製品
機工・計測システム	ツーリング、保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、コンプレッサ、スピンドル

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
定時株主総会	毎年6月下旬		三井住友信託銀行株式会社
基準日	毎年3月31日	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
記録簿・株簿			三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告により、当社のホームページに掲載します。 http://www.kuroda-precision.co.jp/ ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。	(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。

株式に関するお手続きについて

○証券会社等の口座に記録された株式	
お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
郵送物等の発送と返戻に関するご照会	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
支払期間経過後の配当金に関するご照会	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
株式事務に関する一般的なお問合せ	TEL. 0120-782-031 (フリーダイヤル)
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
○特別口座に記録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。	
お問合せ先 0120-782-031 (フリーダイヤル)	
[手続き書類のご請求方法] ・インターネットによるダウンロード http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区下平岡239番地
TEL / 044-555-3800 (代表) FAX / 044-555-3524
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>

